

国立公園と市民をつないだ2年間

発表者氏名： 建元 喜寿

所属学校種： 筑波大学附属坂戸高等学校

派遣職種： 環境教育

派遣国： インドネシア

派遣先： グヌングデパンランゴ国立公園
(西ジャワ州チアンジュール県)



キーワード： 出前授業、3R、環境教育、企業CSR、エコツーリズム

発表要旨：

私は、インドネシアの首都ジャカルタから約100kmにある、インドネシアで最も歴史のある国立公園で環境教育隊員として活動しました。主な仕事は、1) 国立公園周辺の村にある小学校に国立公園の職員と訪れ、森の役割やゴミ問題に関する出前授業を行う、2) 国立公園周辺の住民が、森林伐採によらない収入を得られるように、国立公園を利用したエコツーリズムを都市部の住民にプロモーションをすることの二つでした。



インドネシアに赴任した当初は、言葉もわからず、地域の小学校を訪れる環境教育の出前授業も、公園の予算の関係上、まったくと言っていいほど、機会に恵まれませんでした。しかし、国立公園で働き始めて1年近くが経過した頃から自分の活動をサポートしてくれる良き同僚に恵まれ(振り返ってみれば、語学ができず、自分からコミュニケーションをとることにおっくうになっていただけで、同僚たちは、いつも優しく接してくれていたと思います)、活動が飛躍的に動きはじめました。特に、国立公園を水源とするミネラルウォーター会社と、国立公園をつなぐことに成功し、インドネシア初の国立公園のロゴ入り商品を販売することになり、あわせて、企業から国立公園の保護活動や、出前授業など地域への啓発活動を行う際の支援を得られることになりました。これにより、現在では、毎月、地域の学校で、環境教育の出前授業が実施できるようになりました。また、ジャカルタにいる多くの日本人の方にも、国立公園を訪れていただき、日本とインドネシアのつなぎ役としても、2年間活動することができました。帰国後は、トヨタ財団のアジア隣人プログラムに採択され(助成番号:D10-N-o148)、日本とインドネシアの高校生が協働してゴミ問題の解決にあたるプロジェクトを行っています。2年間の経験を生徒達に還元していきたいと思っています。